

作文方程式

【初級編】

論説文用テンプレートの使い方

1. はじめに

(すぐに使い方を知りたい方は、ここは読み飛ばしてもかまいません)

書いていると横道にそれてしまうー。何を言っているのか自分でもわからなくなるー。尻切れトンボになるー。書くことに対して、そんな悩みを抱えている人は少なくないようです。

そういうといかにも人ごとのようですが、じつは私も作文は昔から大の苦手でした。正直いうと今もけっして得意なわけではありません。そんな私がなぜこのような教材を作ろうと思ったのか？ そこにはそれなりのわけがあります。

まずはそこからお話ししましょう。

私が子供の頃から作文が苦手だったことはいま述べた通りです。ところが、どういうわけか、私が社会人になってからもぐりこんだのはなんとマスコミ業界でした。しかもそこで何食わぬ顔でライターを名乗っていたのですから、人の運命というのはどこでどう転ぶかわからないものです。

とはいえ、当たり前ですが、ライターの名刺を作ったからといって、その日から突然、文章力が爆上がりして、万事めでたしめでたしとなるわけではありません。当然ながら書いては消し、書いては消しを繰り返しつつ、それこそ文字通り苦吟しながら日々原稿用紙と格闘していたのを思い出します。バブル時代という特殊な状況だったことを差し引いても、あれでよく食えていたなと驚くというよりあきれかえってしまいます。

それに加えて、当時の私にはもうひとつ腑に落ちないことがありました。それはそんな私でもなぜかスラスラ書けるとき「も」あるということです。いや「気持ちに乗る乗らない」といった気分的な話

ではありません。気分とはまったく無関係にそれまでと打って変わって筆が自然に動くときがあるのです。

なぜ筆が動くときと動かないときがあるのでしょうか？ 文才というのは、ある日突然目覚めたり、眠ったりするものなののでしょうか？ いいや、そんなはずがありません。持って生まれた才能というのはそんな気まぐれなものではないはずです。

長年不思議に思っていた私はある日、そこにひとつの共通項を発見しました。それは、書けるときは例外なく「問いが明確になっている」のに対し、書けないときは「問いが明確になっていない」ということです。

なぜ「問い」が明確になっていないと書けないのでしょうか？

ここには文章というものの本質的な部分が関係してきます。

そもそも、文章というのは突き詰めていえば「問い」に対する「答え」です。なんらかの疑問がそこにあり、その疑問に対して答えを提示するというのが文章の基本的な構造です。

そのことはコミュニケーションの原型が、たとえば原始人同士の「あれはなんだ？」「イノシシだ！」といった言葉による問いかけとそれに対する応答であること、さらにそのコミュニケーションの発展形が文章であることに思いを馳せられる人であれば容易に首肯していただけるはずです。

したがって明確な文章を書くためには、その前提条件としてまず問いが明確である必要があります。なぜなら問いが明確でなければ明確な答えは出せないし、明確な答えが出せなければ明確な文章は書けないからです。

そこまで思い至った私の頭のなかにパッと光が灯りました。

——ということは『問い』さえ明確にできれば、文章を書くのはそう難しくないのでは？

——文章が問いと答えという基本構造からできているのであれば、それを一定の法則のもとに展開することで文章として組み立て直すことも可能なのでは？

こうした一連のひらめきから導き出されたのが、ここにご紹介する作文方程式です。

作文方程式とは？

作文方程式というのは、いうまでもなく私の造語です。数学の方程式のように未知数となる部分に言葉をあてはめていくだけで、答えが導き出せるところからそう名付けました。

ここでいう答えとはなんでしょうか？

アウトラインです。

アウトラインというのは文章の骨子であり、骨組みのことです。具体的には、書き出しから本文、そしてまとめに至るまでの流れを短い言葉で書き記したものです。

車の運転にたとえば地図、もしくはカーナビのようなものです。

アウトラインも作らず文章を書くのは地図やカーナビも持たずに車を運転することに似ています。それは自分が今どこにいるのかもわからず闇雲に走り回るようなものです。しかしそれでは走れば走るほど道に迷うばかりでしょう。

書けないというのは要するにそういうことです。出発しようにも向かう先がわからないから動けないのです。だから、うんうん唸ってばかりで一向に書き出せないし、たとえ書き出せたとしても途中でどの方向に行けばよいのかわからなくなってしまうのです。だから、いつのまにか横道にそれてしまったり、何を書いているのか自分でもわからなくなったりしてしまうのです。

作文方程式はこのアウトラインを導くためのシンプルな方法論です。またその作成を支援する実践的なツールでもあります。これを使えば、指示にしたがって入力するだけで文章の骨組みとなる明快なアウトラインが簡単に導き出せます。さらにそこへ枝葉となる表現を肉付けしていくことで筋道の通った、わかりやすい、しかも個性的な文章が誰でも簡単に書けるようになります。

この教材の対象者

この教材が対象にしているのは次のような人たちです。

- 1、まったく書けない人
- 2、書ける時と書けない時でムラがある人
- 3、文章の組み立てにもっと意識的になりたい人

また次のような人たちは対象外となっています。

- 1、文章の表現力を高めたい人
- 2、名文を書きたい人
- 3、小説や詩、手紙文など文学的な文章を学びたい人

なぜ後者を対象外とし、前者に対象を絞ったのかについては冒頭のいきさつをお読みになった方であればご理解いただけるかと思います。そうです。理由はこの作文方程式という方法論自体、「書けない」私が「書けない人」のために作ったものだからです

ここで、みなさんのなかには「書けない」私になぜ「書くための教材」が作れるのか、と疑問に思った方もいらっしゃるかもしれません。

先に答えを言っておくと、「名選手必ずしも名コーチにあらず」ということです。むしろ私からすれば「下手な選手でないと名コーチにはなれない」といいたいくらいです。

これに関連して私がいつも思うのは、文章の書き方を教える本は世の中にたくさんあるのに、「書けない」人の役に立つものは驚くほど少ないということです。

もちろん「書けない人」、つまり初心者向けを謳った文章ノウハウ本もあるにはあります。けれど私のように本当に「書けない人」からするとそれらはどれも的外れなのです。書けない人の悩みがわかっていないというか、ツボにはまっていないというか…「そこじゃない!」、という違和感がどうしても拭えないのです。

なぜ的外れになってしまうのでしょうか？ それはこうした本を書く人のほとんどが「書ける人」だからだと私は考えています。

物心つく頃からそれなりに書けていた人は、文章というものは書けて当然で、話したり、歩いたりするのと同じくらい自然で当たり前の能力と思っている節があります。そんな人にしてみれば、どうやって話すのかとか、どうやって歩くのか、と聞かれても面食らってしまうことでしょう。

要するに「書ける人」には「書けない人」の悩みはわからないのです。書けないという状態がどういうものなのか理解できないし、想像もできないのです。

「書ける人」が書いた文章ノウハウ本が「書けない人」には役に立たず、的外れになってしまう理由もそこにあります。

だからこそ、「書けない私」が、「書けない人」の目線で、「書けない人」のために、本当に「書けるようになる教材」を作ろうと思い立ったのです。

書けない人はどこでつまづいている？

そもそも、書けない人は一体どこでつまづいているのでしょうか？

じつのところ、彼ら彼女らは、どうすればもっと気の効いた言い回しにできるかで悩んでいるわけではありません。文章をどう組み立てたらよいのか、つまりどんな言葉をどんな順序で並べていけばよいのか、という始めの一步、いやそれ以前の段階でつまづいているのです。

先ほどたとえに出した車の運転でいえば、目的地までの道のりを示す地図、もしくはカーナビがないため出発できないでいる状態です。すなわち、文章の地図を示すアウトラインがないため、何をどう書けばよいのか途方にくれているのです。

この作文方程式がフォーカスしているのは、まさにこのアウトラインです。その最大の目的もこのアウトラインという文章の地図をあなたの前に提示することにあります。

地図、もしくはカーナビさえあれば道に迷わないように、この作文方程式があれば文章作成という道のりで方向を失うことがなくなります。またそれを指針とすることで、横道にそれることなく、論理の明快なわかりやすい文章を、最後までスラスラと書けるようになります。さらにこれを十分理解して使いこなせるようになった暁には、これに頼ることなく、自分だけの力で思い通りの文章を自由自在に紡ぎ出せるようになるはずです。

もちろん、それがどこまで実現できるかは人にもよりますのでフタを開けてみないとわかりません。けれど少なくとも私自身についていえば、この方法論を発見して以来、あれほど苦吟の連続だったライティング作業が格段に楽になったことは間違いありません。

一人でも多くの人々が、この作文方程式というカーナビならぬ「文章ナビ」を使いこなして、文章作成という険しくも楽しい道のりを少しでも快適にたどれるようになることを願う一方で、今これをお読みのあなたもまたきっとそうなるであろうことを心の奥底でひそかに確信している私がいることを申し添えておきたいと思います。

前置きがながくなりました。それでは以下、そのテンプレートの使い方を作文方程式の説明とからめながら順にご説明していきましょう。

2. 商品内容の確認

まずは商品の中身を確認します。

テンプレートおよびマニュアルを含む商品一式は「sakubun_advanced_tmpl」というフォルダの中に入っています。

ご使用にあたってはその中の index.html というファイルをブラウザで開いてください。

作文方程式

アウトライン作成テンプレート

たった三行を埋めるだけで思い通りの文章が作れる！

1行目	<input type="text" value="A"/>	は	<input type="text" value="B"/>	である
2行目	なぜなら	<input type="text" value="C"/>	だから	
3行目	ということは	<input type="text" value="D"/>	だよ	ね

初級編

[論説文用テンプレート→](#)

[使い方説明書→](#)

※はじめての方はこのテンプレートをお使いください

[論説文WHY文用テンプレート→](#)

[使い方説明書→](#)

[説明文用テンプレート→](#)

[使い方説明書→](#)

[最新のファイル式をダウンロードする→](#)

そこには上図のように文章のタイプに応じた三つのテンプレートとその説明書へのリンクがあります。

また「最新のファイル一式がダウンロードできる」リンクもあります。商品は随時バージョンアップを行っております。必要に応じて最新バージョンをダウンロードなさってください。

なお同じものをオンライン上にもご用意しました。OS とブラウザによってはデスクトップ上で開けない場合もあるようです。どうしても開けない方は恐縮ですが、そちらをご利用いただきますようお願い申し上げます。

https://mirainium.com/sakubun_tmpl_beginner

3. テンプレートの種類について

テンプレートの種類とその使い分けについて説明します。

●論説文用テンプレート

「自分はこう思う」という主張をもつ論説文を書く際にお使いください。またその使い方については「論説文用テンプレート使い方説明書」（今お読みのこの文書です）をご覧ください。

●論説文 WHY 文用テンプレート

「問い」が「WHY（なぜ）」から始まる論説文を書く際にお使いください。「問い」が「WHY（なぜ）」から始まる場合、若干方程式が変わってきます。使い方については「論説文 WHY 文用テンプレート使い方説明書」をお読みください。

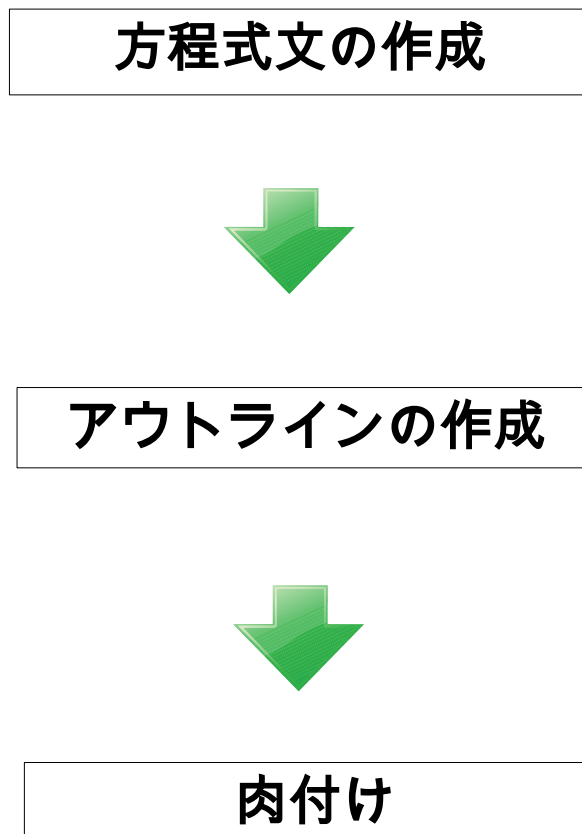
●説明文用テンプレート

同様に説明文を書く際は、説明文用テンプレートとそのマニュアル（使い方説明書）をお使いください。

基本となるのは「論説文用テンプレート」です。はじめての方はまずこちらをマスターしてください。これ以外のテンプレートはみなこれの応用バージョンです。論説文用テンプレートをマスターすれば、それ以外のテンプレートは自然に使えるようになります。

4. 基本的な作業の流れ

作業は次のように3つの段階からなります。



以下、順に説明していきます。

5. 方程式文の作成

5-1 下準備

まずは方程式文を作成します。

方程式文というのは

「A は B である」

「なぜなら C だから」

「ということは D だよ」

という三行からなるシンプルな文章です。

ここで作成した方程式文がこれからおこなうすべての作業の土台になります。

1行目	<input type="text" value="A"/>	は	<input type="text" value="B"/>	である
2行目	なぜなら	<input type="text" value="C"/>	だから	
3行目	ということは	<input type="text" value="D"/>	だよ	ね

それでは早速、テンプレートを使って方程式文を作成してみましょう。

5-2 問いの入力

はじめに問いを入力します。

▼ 作文方程式

1 行目

A:明らかにしたい問いはなんですか？

問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえ？

は

B:それに対する答えは？

答えを簡潔に記入します。例：ラーメン『馬賊』だ。

である

2 行目

C:その理由は何ですか？

理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。

だからである

3 行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！

だよ

アウトラインを書き出す

ここであなたが問題にしたい問いは何でしょうか？ 何かを書きたい、というからには明らかにしたい何かがあるはずです。またそうである以上、そこには明らかにすべき何らかの疑問があるはずです。

その疑問がここでの問いになります。それを入力してください

例文でいえば

喜多方でおすすめのラーメンといえど？

猫をじっと見つめるのは YES、NO？

になります。

その問いを「X とは何か？」「X の真偽は？」「X をするにはどうすればよいのか？」など、文として明確に意味が通るような形にして入力します。

なおこの段階では必要以上に表現に凝る必要はありません。自分で意味が取ればそれで十分です。

また、問いが複数あって、どれを選んだらよいのか判らない場合は、一番重要な問いを入力してください。一番重要な問いというのは、文全体のテーマに関わる大きな問いです。それなしには文章が成り立たないような、全体を貫く柱となる問いです。

どれが大きな問いでどれが小さな問いなのかは、慣れないうちはなかなか判別できないかもしれませんが。そんな時は、どれでもよいのでまずはとにかく欄を埋めてみてください。それが適切か否かは方程式を埋めていく過程でみえてくるはずです。

プロセスを進めていく過程でどうも適切でないと感じた場合、別の問いを入れて最初からやり直しましょう。

なお「なぜ X なのか？」「X の理由は何か？」のように、WHY（なぜ）による問いの場合、方程式が若干変わります。WHY による問いから始まる場合、「論説文 WHY 文用テンプレート」をお使いください。

5-3 答えの入力

次は答えの入力です。

▼ 作文方程式

1 行目	A: 明らかにしたい問いはなんですか？ 問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえば？	は
	B: それに対する答えは？ 答えを簡潔に記入します。例：ラーメン『馬賊』だ。	である ← 答えを入力します
2 行目	C: その理由は何ですか？ 理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。	だからである
3 行目	D: まとめて？ まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！	だよ

アウトラインを書き出す

これはそれほど難しくはないはずです。問いが明確になっていれば普通、答えも明確になっているからです。というより答えがわからないテーマについて書くことなどそもそもありえないでしょう。

注意していただきたいのは、ここでいう答えというのは問いに対する実際の解決策ではなく、あなたの意見だということです。

そのため、実際の解決策がない問いに対する答えは「解決策はない」となります。この場合、解決策がないことを前提に、どうすればよいのか、などと論じることになります。

※正確にいうと、この場合、「どうすればよいのか」が文章全体の問いになるはずです。つまり、この「どうすればよいのか」が「大きな問い」に相当し、解決策についてのそれは「小さな問い」に相当します。

なお例文では

ラーメン『馬賊』だ

が入っています。

5-4 理由を入力する

文章の基本形は、問いと答えです。したがってそのふたつがあればいちおう文章としては成り立ちます。実際、それで十分な場合もあります。しかし、通常、それだけでは不十分です。なぜそのような答えになったのか、読者はその理由を知りたいと思うのが普通だからです。

そこで求められるのがこの「理由」の部分です。ここではなぜそのような答えになるのか、その理由を簡潔に記入します。

▼ 作文方程式

1 行目

A:明らかにしたい問いはなんですか？

問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえば？

は

B:それに対する答えは？

答えを簡潔に記入します。例：ラーメン『馬賊』だ。

である

2 行目

C:その理由は何ですか？

理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。

だからである

3 行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！

だよな

アウトラインを書き出す

理由を入力します

ひとことで言えない場合も多いかと思いますが、ここでは抽象的・総論的な言葉でかまいませんので「～だから」とできるだけシンプルな形で記入してください。そうでないと、あとでアウトラインを組み立てる際、悩んでしまうことになります。

ここでは

比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる

と複数の理由をそのまま並べています。

なお理由が複数ある場合、「理由は以下の通りだ」で始め、それらを箇条書きで列挙する形でもかまいません。

たとえば、

理由は以下の通りだ。

- 1、 スープは比内地鶏を長時間煮込んで作った鶏ガラ系
- 2、一度食べるとやみつきになる絶妙な味
- 3、評判の味を求めて全国からラーメン通が集まってくる

といった形です。

5-5 まとめを考える

次はまとめです。

前段階までで文章としてはほぼ完成です。文章として言うべきことは基本的に言い尽くしてあるからです。ただし、読む側からするとそれでもやはり若干物足りないはずです。

というのも、「要するにそれはどういうことだ?」とか「言いたいことは判った。で、君はそれに対してどう思っているんだ?」といった新たな疑問が浮かび上がってくるからです。そこで補足的に必要なのが、まとめです。

ここでは「問い」→「答え」→「理由」というそれまでの流れを受けて、「ということは～」もしくは「だから～」という形でまとめとなる文を入力してください。

▼ 作文方程式

1行目	A:明らかにしたい問いはなんですか？ 問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえど？	は
	B:それに対する答えは？ 答えを簡潔に記入します。例：ラーメン『馬賊』だ。	である
2行目	C:その理由は何ですか？ 理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。	だからである
3行目	D:まとめると？ まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！	だね

← まとめを入力します

アウトラインを書き出す

まとめに入る内容としては、一般に「結論の再確認」「課題の明確化」「メリットの提示」「補足」「感想」「行動促進」「願望」などがあります。

例文では

行列ができているが並ぶだけの価値はある

とそのメリットを提示するとともに読者の行動を促す内容になっています。

以上で方程式文は完成です。

6. アウトラインを作成する

6-1 アウトラインを書き出す

さて指示通りに入力が終わったら最後に「アウトラインを書き出す」を押してください。

▼ 作文方程式

1 行目

A:明らかにしたい問いはなんですか？

問いを簡潔に記入します。例：喜多方でオススメのラーメン屋といえぼ？

は

B:それに対する答えは？

答えを簡潔に記入します。例：ラーメン『馬賊』だ。

である

2 行目

C:その理由は何ですか？

理由を簡潔に記入します。例：比内地鶏を長時間煮込んで作ったスープが絶妙。癖になる味。全国から客がやってくる。

だからである

3 行目

D:まとめると？

まとめとして書きたいこと（課題や感想等）を簡潔に記入します。例：行列ができているが並ぶだけの価値はある！

だよ

アウトラインを書き出す

そうするとアウトラインが表示されます。

これでいったん作業は完了です。

お疲れ様でした。

6-2 肉付けする

ここであらためてアウトラインを読んでみてください。

いかがでしょうか？

ぶつかりで表現もこなれていないかもしれませんが、いわんとすることの6割～8割は伝わる文章になっているのではないのでしょうか？

あとはそれを10割に近づけるだけです。そしてそのための作業が「肉付け」になります。

肉付けというのは、言葉を補ったり、別の言葉に変えたりして表現をブラッシュアップすることです。

どう肉付けするかは自由です。よりわかりやすい表現になるよう各自工夫しながら推敲を重ねてみてください。

なおここでは具体的な肉付け方法については触れません。文章の表現力を高めるノウハウ本はすでに数え切れないほど出版されていますし、ネット上にも同様のサイトがたくさんあるからです。

※正直いうと、表現力に関しては私もあまり自信がありません。少なくとも皆さんに教えられるほどの表現力は持ち合わせておりません。恐縮ではございますが、表現力を高める方法については出版物やネット上のサイトなどに当たっていただければと思います。

代わりに、ここでは肉付けする際のヒントだけ記しておきます。

肉付けの方法には大きく分けて次の二通りがあります。

1、表現を膨らませる

言葉を補い、よりわかりやすい表現に直します。とくに意味が伝わりにくかったり、誤解を招くような部分は言葉を尽くしてきちんと説明します。

ただし文章はシンプルイズベストです。表現を手直した結果、かえって短い文になったとしても簡潔にしてわかりやすいのであれば、それがベストです。無理に膨らませる必要はありません。

2、情報を追加する

肉付けする一番簡単な方法は情報を追加することです。それらを必要に応じて追加してください。ただしいうまでもありませんが、追加する情報は論旨に沿ったものでなくてはなりません。たんに字数を膨らませる目的で無関係な情報を混ぜ込んでしまつては、論旨がわかりにくくなってしまいます。

また論旨に沿った情報であれば、それにふさわしい場所が必ずあるはずです。全体の論旨と前後の流れを確認しながら、ふさわしい箇所に追加してください。逆にふさわしい場所が見つからないのは、それが不要な情報である証拠です。そのような情報を無理に入れ込む必要はありません。

7.あとは練習あるのみ！

いかがでしたでしょうか？

使い方そのものは指示どおり空欄をうめていくだけです、それほど難しくはなかったかと思います。もしかしたら例文のようなカンタンな文章であれば、今日からでもスラスラ書ける自信がついた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

けれど…。いうまでもありませんが文章作成は理屈だけのものではありません。それはむしろスポーツのような身体的技能に属するものであり、それを習得するためには一定の訓練期間が要求されます。

このテンプレートも同じです。このテンプレートの謳い文句は「コツ（暗黙知）を言語化し見える化した」というものですが、コツを頭で理解するのとそれを身体に覚えさせるのとはまた別の話です。

そのためこのテンプレートを使って実際にそれなりの完成度の文章が作れるようになるには、コツを頭で理解することに加え、それを身体に覚えさせる必要があります。そしてそのためには一定の訓練はどうしても欠かせません。

そこでお願いします。

これから文章を作成する際は必ずこのテンプレートを使ってください。テンプレートに頼らなくてもスラスラ書けそうな時でもできるだけそうしてください。ましてや何を書けばよいのかわからない時は必ずそうしてください。もちろん最初はどんな言葉を埋めればよいのか、まるで見当がつかないかもしれません。たとえ埋めたとしても的をはずしてばかりかもしれません。

それでかまいません。習うより慣れろの精神で試行錯誤を重ねてみてください。そうしているうちに、やがて「あ、そういうことか！」と腑に落ちる瞬間が必ずやってきます。それがコツを体得した瞬間です。

そうなればしめたもの。そうなった暁にはあなたは間違いなく今より数段楽に文章が書けるようになっていることでしょう。と同時にいままで心の奥底にこびりついていて文章作成に対する苦手意識もどこかへ消えてしまっているはずです。

そして、これが重要なことですが、そう遠くない将来、あなたはこのテンプレートに頼らずとも、いつでも意のままに論旨の明快なわかりやすい文章を自由に紡ぎ出せる自分自身を発見することになるでしょう。

それがこのテンプレートがめざす最終的なゴールです。

そうなるまであとほんの少しです。それまで、もうしばらくの間、どうか辛抱してこのテンプレートとおつきあいください。

このテンプレートがあなたの文章力向上の一助となりますようにー。

「作文方程式」テンプレートを 使うためのコツ

●方程式文をきちんと作る

このテンプレートを有効活用するうえで最も重要なのは、方程式文をきちんと作ることです。

すなわち

AはBである なぜならCだからである ということはDだよね

という方程式文をできるだけ明快な論理で作り上げるということです。

その上でそれぞれの変数（ここでいう ABCD）をテンプレートに当てはめていきます。

A→問

B→答え

C→論証

D→まとめ

その後で、導入部分を考えます。

もちろん、導入部分を省略し、いきなり問いから始めてもかまいません。ただし、通常は糸口となる導入部分が合った方が読みやすくなります。というのも、それがないと何について話しているのかすぐには理解できず、読み手が混乱してしまうからです。

とはいえ、持って回ったような導入部分はいただけません。回りくどい導入は読者を苛立たせるだけだからです。

導入部分は、問いという座敷へスムーズに導くための玄関にもたとえられます。気軽に入れるようできるだけ間口を広くし、そしてさらに奥へ入ってみたいと思わせるようなうまい仕掛けを考えてみてください。